



孝の始

孝の始

孔子孝道と尊
 孝の始
 孝の始
 孝の始



父母の孝と愛敬を
 大切に思ふ



大字
 繪抄

式十四孝

しよ
あつは
ゆふ

○ 孝の終
親がと金十

孝の終
親がと金十
あつは孝のこゝろ
おあり我の身
なりつは良き
父母のたのけぬ
申す一里とほしむ
孝の終
あつは孝のこゝろ
おあり我の身
なりつは良き
父母のたのけぬ
申す一里とほしむ
孝の終
あつは孝のこゝろ
おあり我の身
なりつは良き
父母のたのけぬ
申す一里とほしむ

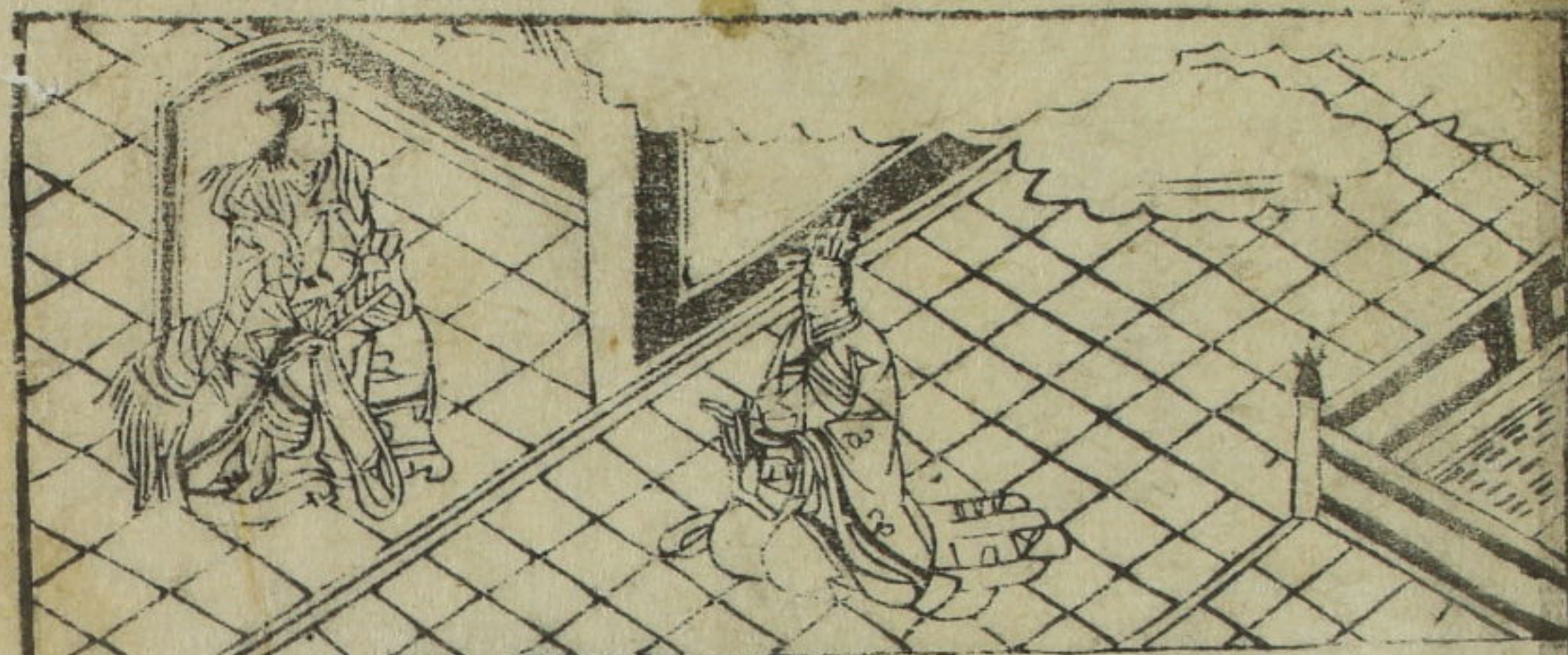


大舜

隊之耕春家物之稼草禽
嗣尧登帝位孝感動天心

大舜父ハ瞽叟トシテ 瞽者母ハ共ニシテ 弟ハ象トシテ
象ハりて去リて 孝ヲ行フニ 母ハ之ヲ見テ 泣ク
帝尧ヘ 徳ヲシテ 初メニ 黜レシ 民ヲシテ 堯ノ
ことニ 徳ヲシテ 堯ノ 徳ヲシテ 堯ノ 徳ヲシテ

國之神三類抄

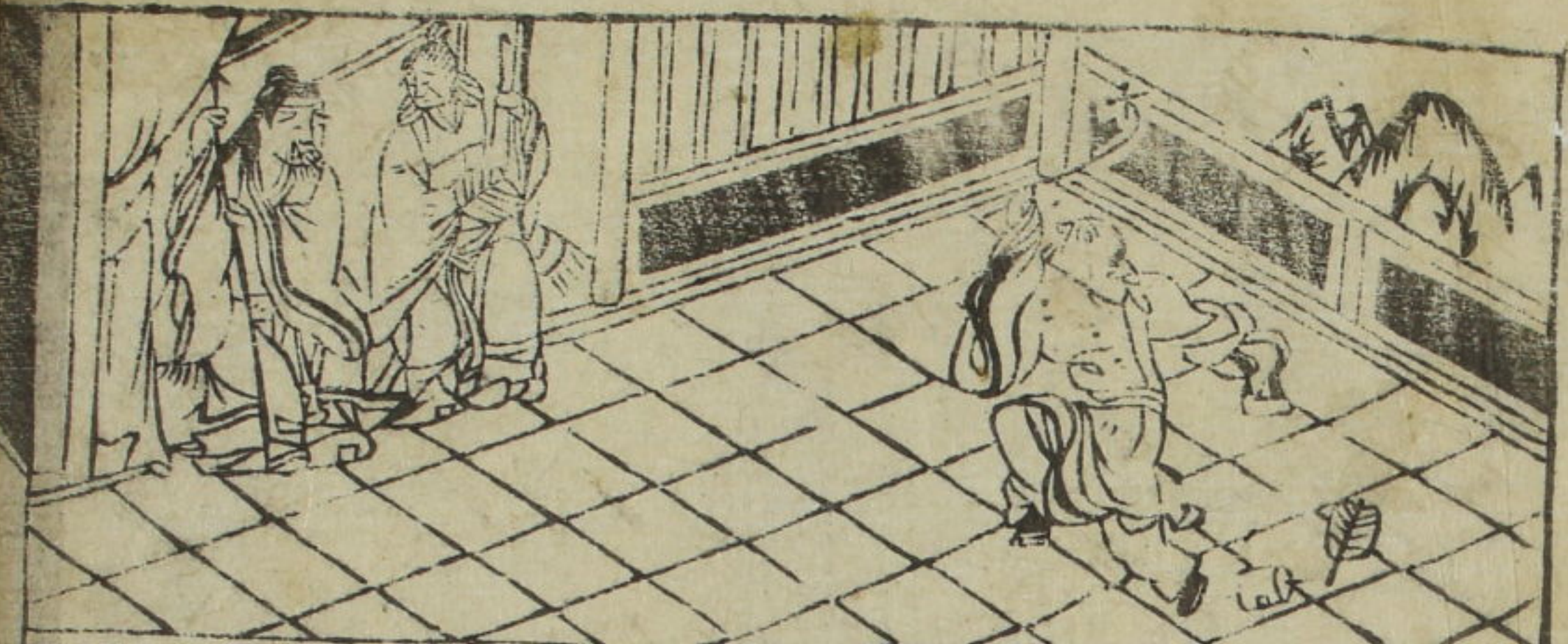


漢の文帝

仁孝源天下 魏と冠百王

漢廷事賢母 湯茶必親嘗

文帝ハ漢の高祖の次子なり母ハ高祖の皇后也
 仁孝に著れ徳を天下に布いて天子の号に冠して
 湯茶を必嘗みたり帝の母を親とて湯茶を必嘗
 むるは孝の至り也

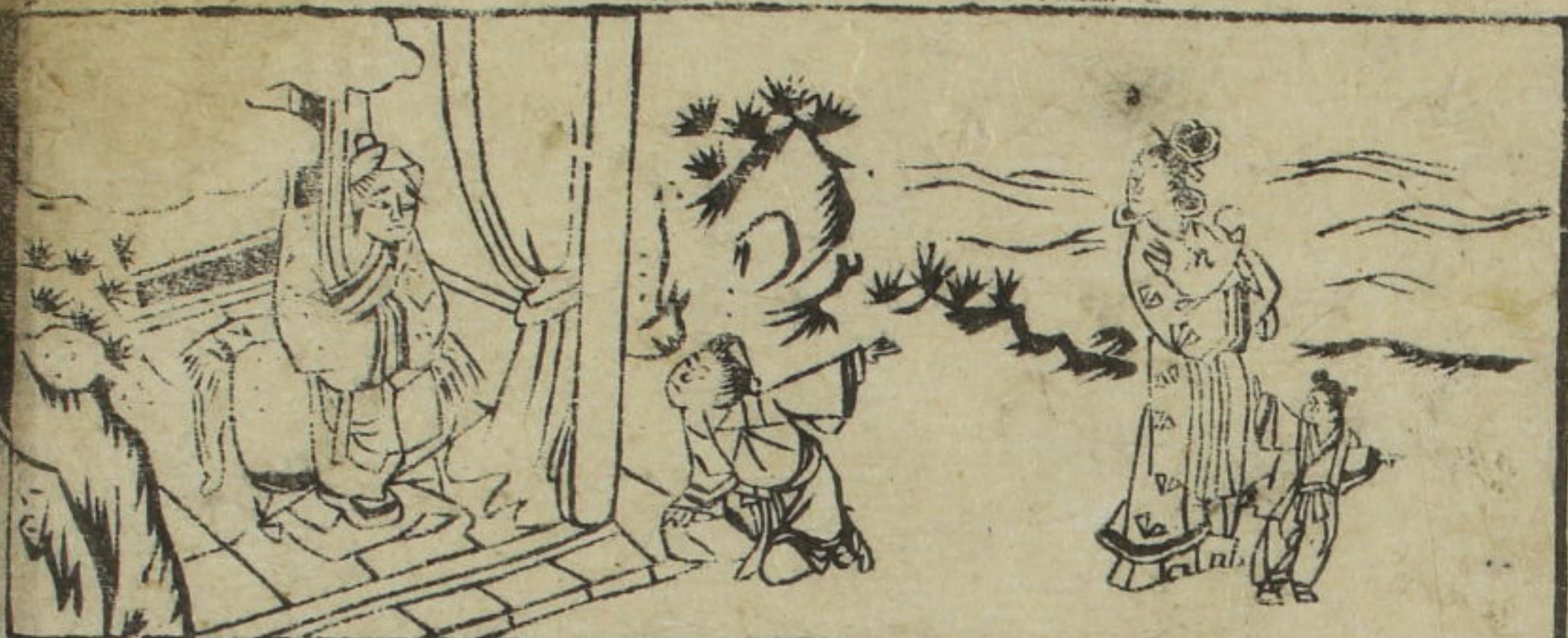


老萊子

戲彩樂嬉遊 春風動綠衣

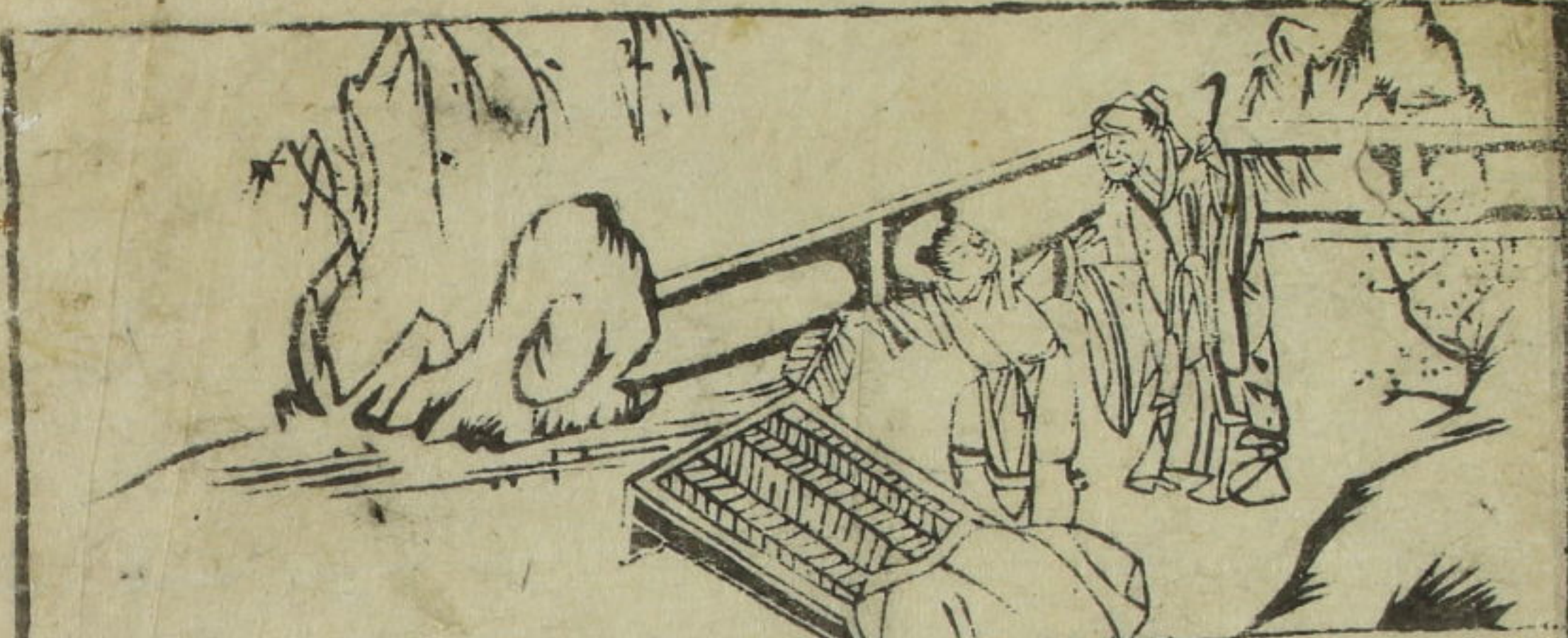
雙親老に笑 在色河魚園

老萊子の楚王の人なり其の年七十余にして
 父母を孝に事ふるありたり常々父母を孝に事
 ふるに似たり其の孝の至り也
 幼穉の時の衣裳は着て戲のあそびに似たり
 の心をなごめしむるなり



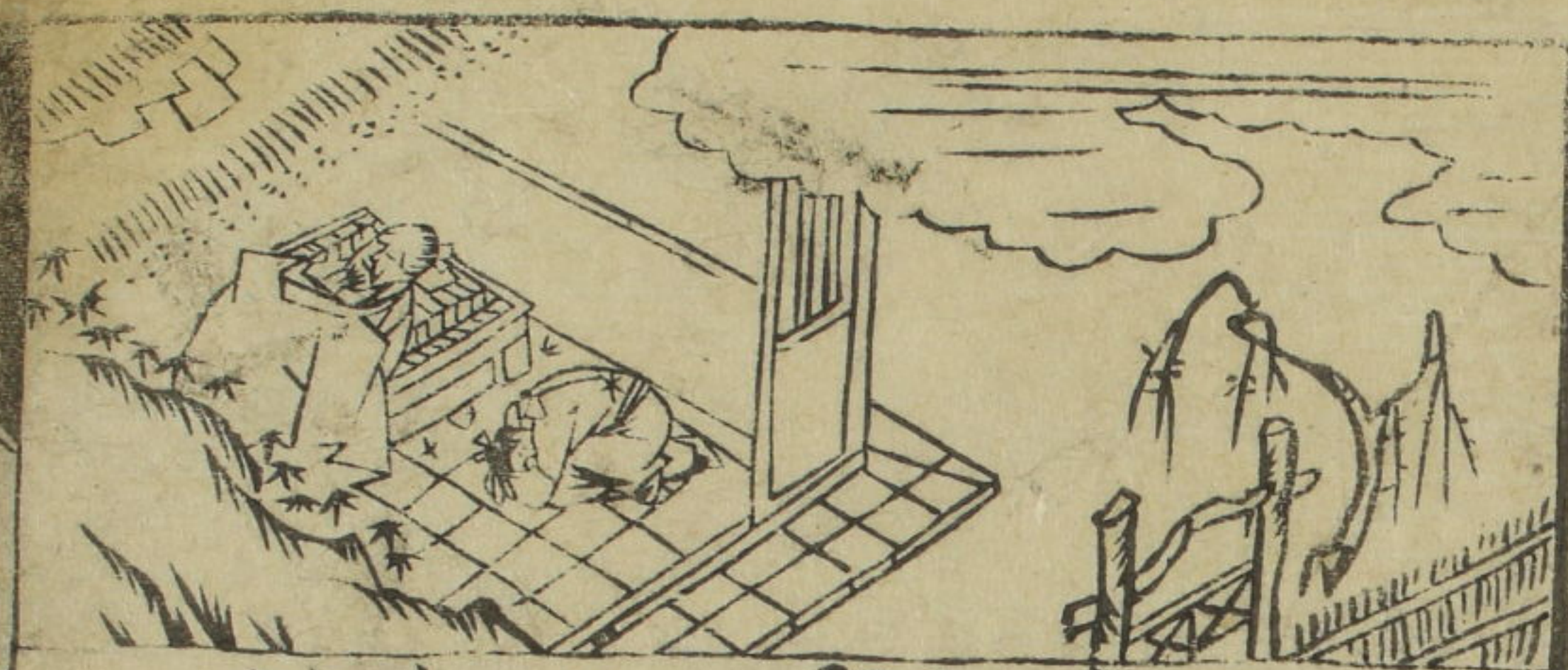
関子書
 関氏有賢良何曾怨晚娘
 昔前留母在三子必風霜
 関子書ハ不孝ノ一ツモ母ヲ恨ミテ
 父後ノ毒ヲ擧リテ之ノコトヲ知ル母因ニ毒
 と悪ク我ク子愛セト云ク父是ト云ルト
 けつと関子書又と録て母身ハ三子

二十四



黄香
 冬月温衾暖友天扇枕添
 兒童知子職千古一黃香
 黄香ハ江夏ノ孝子也其母貧人なり九月母死
 無父を孝子孝行成法を云ふは母不父不
 孝と云ふは指ぬべき事なり冬ハ氷雪を
 あつて兒何と云ふ子一子子なる所と云ふ

二十四



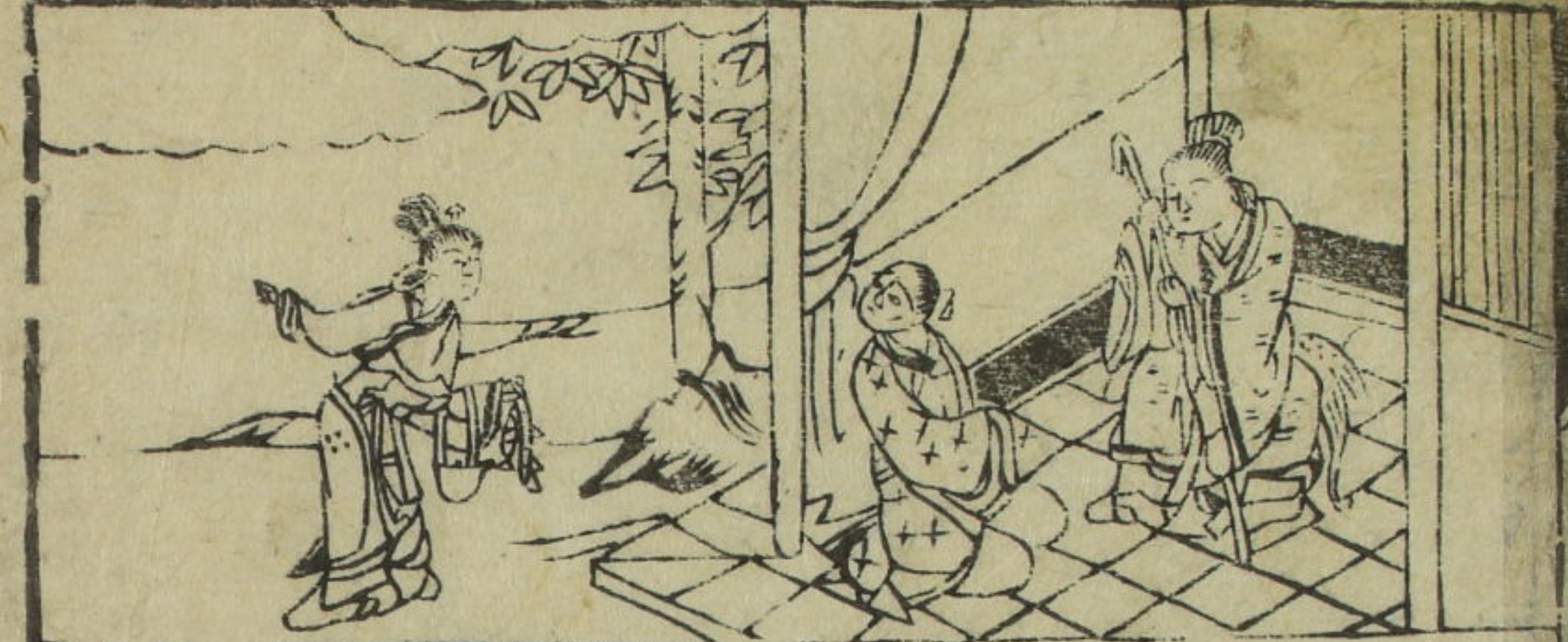
吳語

夜夜無雁帳收每不敢擇

恐渠膏血飽免使入親圍

吳語ハ衆より孝行と極せり故と云々
を不かるひごう交ハ帳もなれど
親と親と親の可くはに外々勤うん
故と云々親の身不ゆる

二古詩



善詩

舍側身泉出一切雙經與

子能知事母婦更孝於姑

善の善と信子母子孝あり一切善事命と云々
不の甘泉と汲めり系大風はあそくうおきけ
きハ善の善と信子母子孝あり一切善事命と云々
食物成をうてはくも善の善と信子母子孝あり一切善事命と云々



董永

娶父貧方兄天婚河上迎

織絹償債重孝感蓋盡名

董永孝乃屋らりけるふ又死してとあり
 其の財用をくまらりてふありひり
 人海にて妻とけり絹と織を賣りて
 とかりたるくふはくのひりりしと也



唐夫人

孝教崔家姪乳姑晨盥梳

此恩無以報願得子孫如

崔南といふ人の妻ありまうとめありて
 食一ハよかきりて夫人乳姑とて
 甲
 其の恩を以て報ふべしと願ひて
 の姑いのちさうに得て一ハを産み



揚香

深山逢白額努力搏腥風

父子他無恙抗母飢口中

年十五而父亡山中入

虎窟食肉揚香父死

として名はひさす揚香父の老

を我はくすむ虎窟食肉

孟宗

涸瀆初風寒蕭々竹數竿

須臾去筆出天意報平安

母病危て食のありけり竹をけりて

母の病を治すに竹をけりて

天も孝を感ずりて雨を降らし

母の病を治すに竹をけりて

如夢



郭巨

貧乏思徒給埋兒願母存

黄金天所賜先彩照寒門

母孫と愛して己の食物と分てらるる郭巨
 生一に此外に食物を母の食物より
 成アそて己の埋めこりて母乃食物とけりぬ
 一一金乃一金

下平 下伊 沃新 澤七 益野 益野 益野



朱壽昌

七歳生離母冬高六十年

一朝相見面老字動是

朱壽昌五十年が母を思ひつゝ一
 官海をまゝにたつ程をばはるあか
 一りも母の面七十

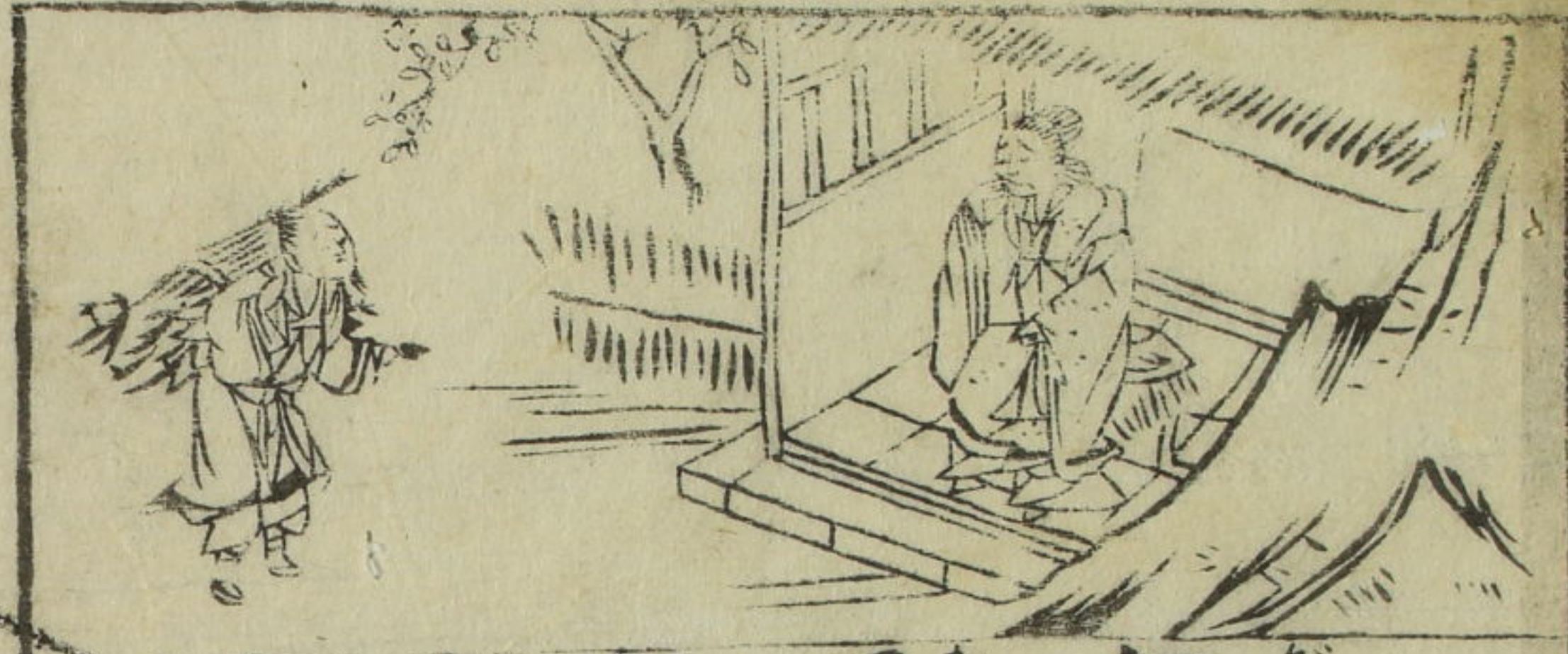
曾冬

母指終方痛兒公痛不禁

負新油未晚骨肉至情涼

たかく、ゆりたればその母もあつたをさとしつて

持とうとうりーとつう母子骨肉のふたあふ



五祥

継母人間有五祥て下無

至今河水上一月外水換

下にはゆれを念きけいひつた





蔡順

黑椹奉親 圍啼飢渴滿衣
赤眉知孝 以牛米炊養後

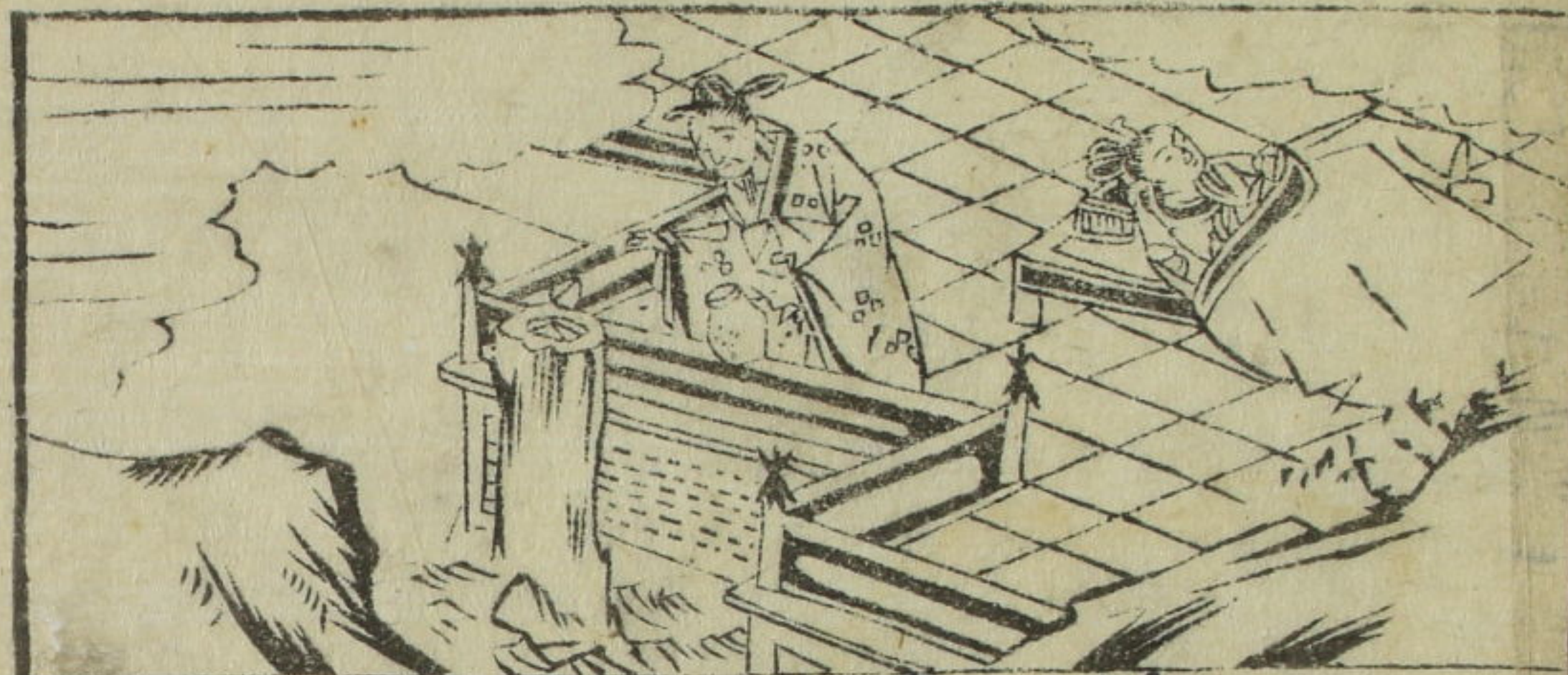
母の疾をむろいて母を孝と云へりけり
 母の疾をむろいて母を孝と云へりけり
 母の疾をむろいて母を孝と云へりけり
 母の疾をむろいて母を孝と云へりけり
 母の疾をむろいて母を孝と云へりけり



庾黔婁

剡縣來自 日橋庭遭疾源
預為其代 死小製此晏公

扇播縣中いふ所の名をなすりて雷まきふ
 むかふは代なる有る人なりけり
 大痛して命あつたけり
 予身代りて死す



山谷

坐顯圓て下 平生孝の親

汲泉消漏番婢者其妻

母の病をふあやしくいふまじき世に
 びとにいまりの笑はずあひらき
 年相病せしとたり



五腹

慈母怕雷水總宿夜屋

阿香肘一震到藝進子廻

其母のて雷とあそれをるあへみほよとて
 雷のつらぶとふそと養のやううへあきて
 いふやうのういりそあやうとふい
 めうういりそあやうとふい

ひんりにひるひ



丁蘭

刻本為慈母形容在自身
害之張子短空早孝之親

母のまこと本像として給仕しけるものなり
そのまこと本像の面影をけきバ瘡のま
りてうらみをいれける一日とて丁蘭のま
みの髪をぬげりてまこと本像のま

ひんりにひるひ



張孝張禮

偶值郷林代某云瘦把
人皆為兄弟張氏古今稀

張孝張禮は兄弟なり八十ある母とやまひ
木の葉とむらひのよのよのくさくさ人よあひ
きて食いとれはれ母を食とあつんあまのり
家の人一ありて又ありて喜まんとして人



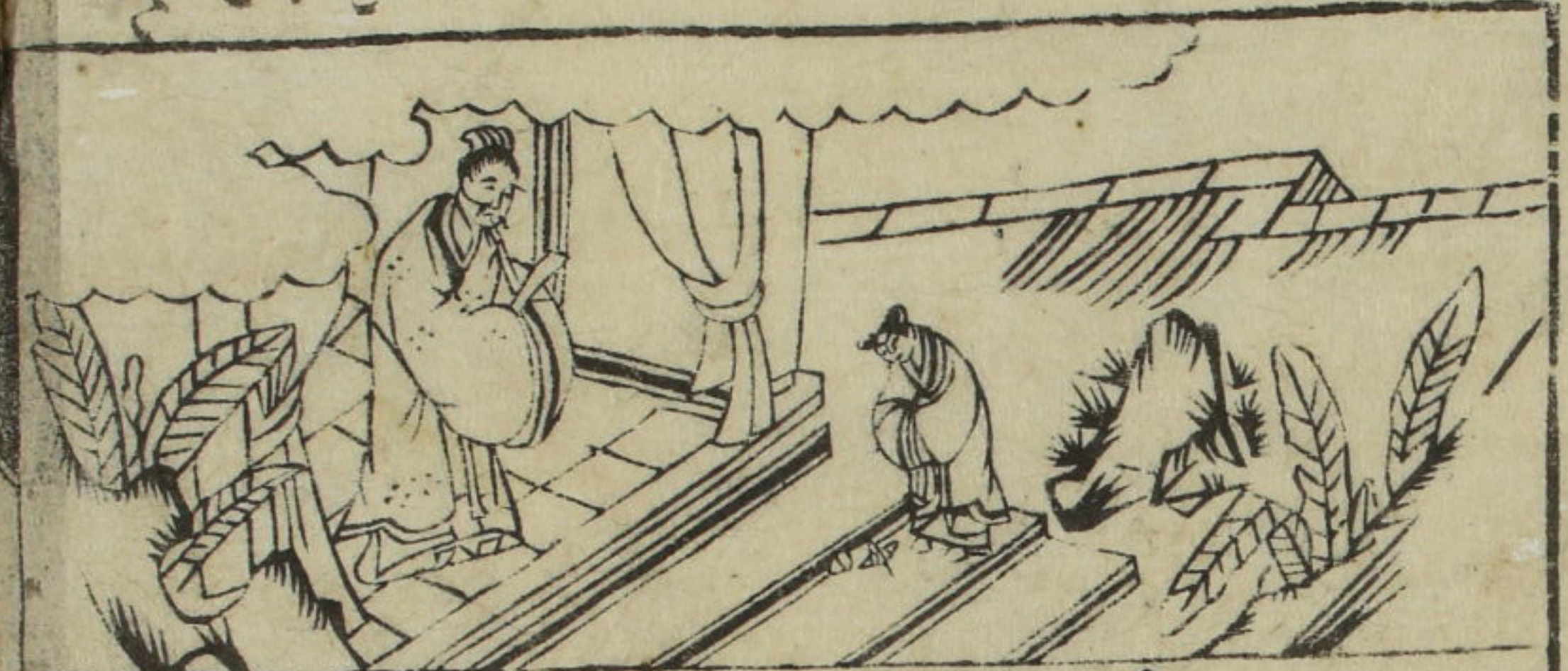
田真田廣田慶

浦底紫珊瑚 野芳物不如

春風死滿樹 兄弟復同春

兄乎二人なり父死しての後財を乞ふ
 けりといふ又春の樹を木にありけり
 エツヨリもてらんといふも知まば
 之人をりさるるなり同春一樹も又

うらひ
 うらひ
 うらひ
 うらひ
 うらひ



陸續

孝悌之性 人間六歳見

袖中懐紙 遺母報含胎

母をわらへん為なりといふも年六歳時や
 母をわらへん為なりといふも年六歳時や
 母をわらへん為なりといふも年六歳時や
 母をわらへん為なりといふも年六歳時や

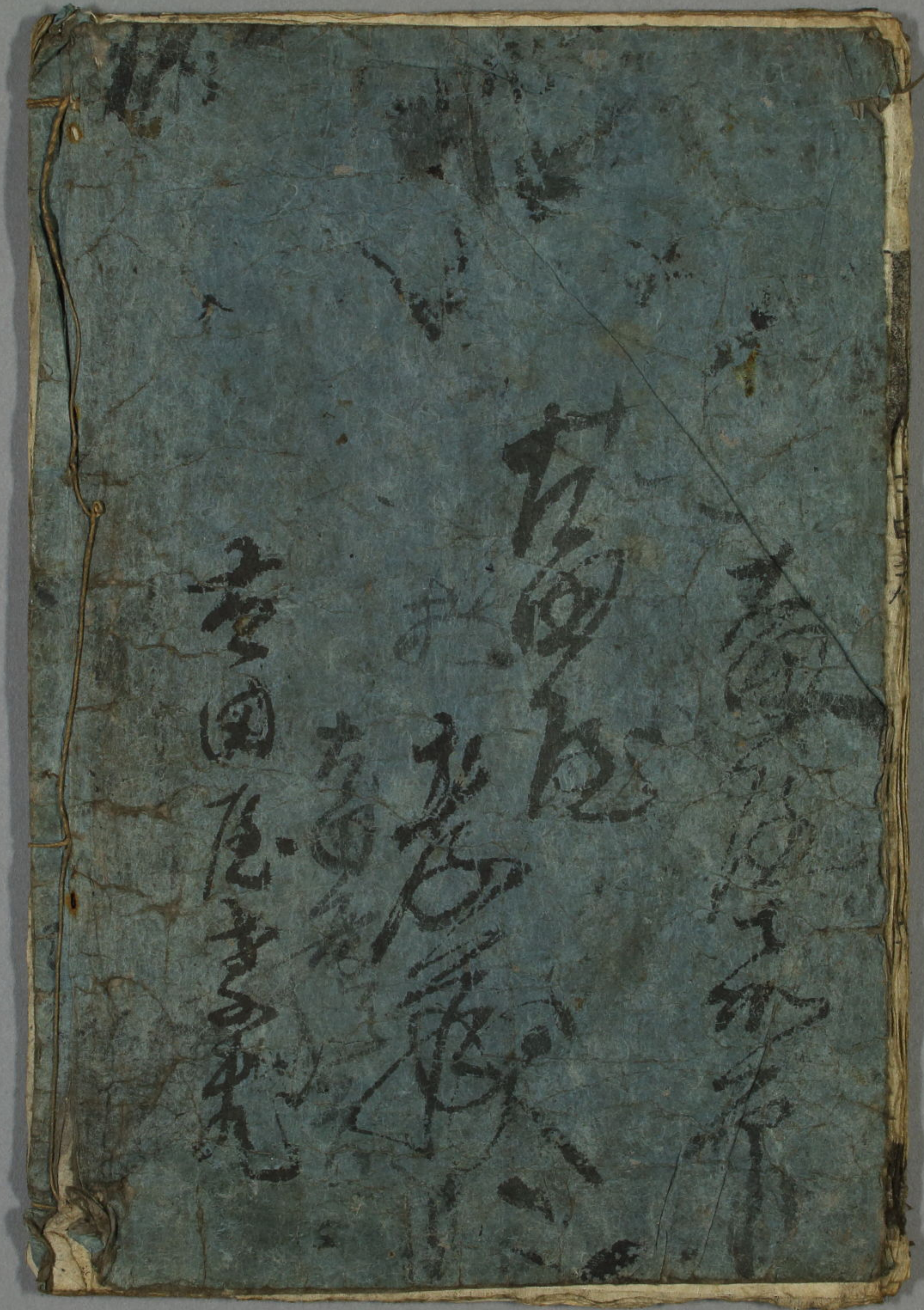
割子

老親恩康乳身掛褐毛衣

善不言孝信山中善惡



扱ぬ眼あきさゆへ麻の乳と糸うひけをハ
割子獨毛の教と方よややひのぬこの麻と
の中ひき入れ入て乳ととりしに特人よまを
中をいひあり此世にぬりて余とまをり



古香齋集卷之一
李國自序